

無痛分娩 説明・同意書

《説明書》

当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っております。

1. よい点

- ・陣痛の痛みはかなり軽減されます。
- ・出産に対する恐怖心や緊張感が減少します。
- ・会陰切開時の縫合処置に同じ麻酔を利用できます。
- ・出産後も麻酔が効いていることで体力の温存ができます。

2. 開始する時期

- ・痛みが強くなって我慢できなくなった時点で開始します。
- ・子宮口が **3～5cm** 以上に開大した頃に開始することが多いです。

3. 麻酔の種類

- ・硬膜外麻酔を使用します。
- ・背中から細いカテーテルを挿入し、そこから麻酔薬を注入します。
- ・鎮痛効果には個人差があります。

4. 方法

- ・腰部に局所麻酔をした後、硬膜外腔に細いチューブを挿入します。
- ・このチューブを通して麻酔薬（鎮痛薬）を注入し、痛みを和らげます。

5. 分娩中の過ごし方の違い

- ・計画無痛分娩を行う場合には入院のタイミングが早まる（前日入院）ことがあります。
- ・導尿を行うことがあります（自力での排尿が困難なためです）。

6. 起こりうる問題点・低血圧（約 10～20%）

- ・頭痛（硬膜穿刺後頭痛：約 1%）
- ・局所麻酔薬のくも膜下腔誤注入による広範な麻酔効果（0.5%未満）
- ・硬膜穿刺による頭痛の持続（ブラッドパッチが必要となることあり：0.5%未満）
- ・感染・出血（極めて稀：0.01%未満）
- ・神経障害（異常感覚・しびれ等：0.01～0.05%）
- ・麻酔効果が不十分な場合（約 5～15%）
- ・分娩第 2 期（いきみ時間）の延長（約 10～25%）
- ・回旋異常（後方後頭位など：約 15%）
- ・吸引・鉗子分娩などの介助分娩の増加（約 15～30%）
- ・胎児心拍数の一過性異常（徐脈など：約 10～15%）
- ・帝王切開の頻度がわずかに上昇する可能性（+5%前後）

《同意書》

私は、無痛分娩の必要性和その内容、これに伴う危険性等について、

十分な説明を受けましたので、診療行為を受けることに同意します。
なお実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、
適宜処置されることについても同意します。

令和____年____月____日

患者氏名（署名）

同意者氏名（署名）

（患者との続柄）